

(病 院)

医薬品情報、緩和ケア、有害事象の収集、がん化学療法・外来がん化学療法、化学療法、治験業務・臨床試験、医療安全、危機管理業務、公衆衛生学、実習後のアドバンス教育、災害医療と薬剤師の役割、災害時の行動倫理、疼痛管理、巡回診療、専門薬剤師、臨床研究、フィジカルアセスメント、院内感染対策、病棟業務、薬薬連携、病院薬局共通の業務、持参薬管理、コミュニケーション、在宅、管理薬剤師など（臨床教育以外のもの）、副作用、TDM、薬事法規の見方・考え方、バイタルサイン、医療経済、救急医療、プレゼンテーション能力、チーム医療の具体的なコース（ICT、NST・TPN、緩和ケア、糖尿病など）、社会常識、SMBGなどの患者指導、死生観、予防医学、医療者の気持ち、患者評価、医師サポート、職業倫理、薬剤師トリアージ（問診・バイタルサイン）、サイコロジー、卒後教育、スピリチュアル・ケア

(薬 局)

法律関係、地域医療への参加・地域で活躍する薬剤師、緩和ケア・死生観、接遇対応、安全対策、ターミナル医療、バイタルサイン、フィジカルアセスメント、管理者・リーダー・指導者の役割、臨床病理学に基づいた薬剤の妥当性の評価、災害医療、MR、治験コーディネーター、老年医学、地域に根付いた薬剤師、後発医薬品、臨床心理、ケアマネージャー、訪問看護、医療理念、過誤の対処法、終末期医療（麻薬使用）、医薬品評価、他職種との連携、医療安全管理指針、介護認定の方法、PTPの種類と工夫、社会性・会話力アップ、学校薬剤師、行政業務（保険所など）、医薬品流通、一般常識、医薬品の研究開発

【記述形式の設問】

[11] 今後取り入れるべきコース（領域）があれば、お示しください。

〈まとめ〉

以下に提案されたものを列記する。ワークショップで取り入れるべきものか、実際の実習のカリキュラムとして取り入れるべきものか、区別がつきにくかった。

(病 院)

衛生管理者、治験業務・臨床試験、臨床研究、一般常識や接遇、コミュニケーション、薬薬連携、地域連携、有害事象、調剤など薬剤師としての基本領域、人間の生と死、緩和医療、僻地診療における薬剤師の意義、がん化学療法・外来がん化学療法、副作用診断、検査値の解釈、ICU・CCUにおける薬剤師の業務、手術室・ICU・救急の薬剤管理、病棟業務・病棟薬剤師、感染症対策、専門薬剤師、血中濃度測定、放射性医薬品の取り扱い、放射性医薬品の取り扱い、調剤・投薬の実際、薬局での患者の生活環境のフォロー、在宅における薬剤管理業務、カンファレンス・回診への参加、アセスメント・フィジカルアセスメント・メディカルアセスメント、クリニカルパス、薬剤師外来、医薬品情報提供、予防接種・ワクチン・ワクチン療法、バイタルサイン・

バイタルチェック、病院と薬局での服薬指導の長所・短所、マネジメント管理、災害医療・災害医療支援、医療安全、レジメ管理、持参薬の管理、お薬手帳の活用、保健診療システム、薬事行政、調剤過誤・アクシデント発生時の対応、医薬品管理、病棟常駐、副作用モニタリング・薬効評価、抗がん剤ミキシング、6年制教育のメリット・デメリット、血中濃度モニタリング、対人援助

(薬 局)

地域医療連携、情報のアクセスと活用、がん化学療法、医療材料・医療機器、患者さんのクレーム対応、工場見学・品質管理、社会人としてのマナー、イニシャルプラン作成、服薬指導・投薬、地域で活躍する薬剤師、災害時医療、薬薬連携、ハイリスク薬の管理と服薬指導の実践、地域保健、後発医薬品、薬局製剤・漢方製剤、在宅と薬剤師のホスピタリティ、防災、学校薬剤師、ロコモティブシンドローム、かかりつけ薬局、投薬指導における標準化、保険薬局の経営と保険点数（医療報酬）、薬局カウンターで学ぶ、患者アンケート、バイタルサイン、専門薬剤師、コストパフォーマンス、臨床心理、臨床研究、薬事・薬局の流れ、情報収集と活用、医療経済、リスクマネジメント、他職種連携、病理とくすり、最新医薬品、在宅医療と介護、知識の活用力養成、チーム医療、調剤過誤、救命救急、MS・MRの仕事、薬歴管理手法

6) ワークショップにおけるカリキュラムプランニングについて、ご要望、ご意見がありましたら、お書き下さい。

【記述形式の設問】

[12] ワークショップにおけるカリキュラムプランニングについてご要望、ご意見がありましたら、お示してください。
--

《まとめ》

(病 院)

全体的に、実際の実務実習に直接役立つ内容を望む意見が多かった。具体的には、すでにモデル・コア・カリキュラムができ上がっているので実際の指導の仕方・評価の仕方について詳しく扱って欲しい、現場の必要性とかけ離れている・非現実的、こういった体験にどれだけ意味があるのか疑問、方略についてももう少し詳しくやりたい、各施設の具体的なカリキュラムを材料にしてはどうか、現場で具体的に活用できることが少ない、といった回答があった。また、運営については、もう少し全体像が分かるようにして欲しい、十分フォローできなかつた、型どおりの進行、時間が足りない（特にSGD）・内容的には2日では足りない、詳しい説明が欲しい、長すぎて集中できない、内容的に過多・もっと短時間にまとめて欲しい、といった配慮が必要との意見が多かった。扱うユニットについては、病院と薬局の参加者に対してそれぞれ適したもの・取り組みやすいものを分けて設定すべきという意見が多く、ユニットの理解が

難しい場合があるのでもう少し事前説明が欲しい、施設間の情報を共有するアイテムが必要、病院・薬局共通のユニットにして欲しい、選べるユニットの種類・領域を増やして欲しい、といった意見があげられた。

(薬 局)

上記の(病院)と共通の要望として、実際の実務実習に直接役立つ内容を望む意見が多かった。カリキュラムプランニングについての体験は有用であったが、実際の指導に具体的に活かせるような内容や指導のノウハウを取り入れること、病院と薬局の参加者に対してそれぞれ適したユニットを設定すること、方略についてももう少し時間を掛けて取り組むこと、事前説明を詳しく行うことなどが要望としてあげられた。運営については、時間が足りない、2日間の研修としては内容が過多、数回に分けて実施して欲しいなどの意見があり、これらも(病院)と同様の要望と言える。

7) 「医療人教育の改革」の講演について

【選択形式の設問】

- ① 講演の内容は理解できましたか。
- ② 薬剤師を含めた医療人の教育改革の重要性についてどのように思われますか。
- ③ 講演の内容は、実務実習を行う上で役に立ちましたか。
- ④ 講演の内容を実務実習を行う上で活用しましたか。

《まとめ》

医療人教育改革の重要性について、病院、薬局ともにおよそ 97%の参加者が重要であると答えている。特に薬局では 49%が大変重要であると回答していることは、患者や地域の人と face-to-face で話す機会が多いためではないかと思われた(病院は 44%)。

このセッションの重要性は、講演で「誰が講演者になるか」「講演内容で何を話すか」に依存するけれども、現在のワークショップにおいて、このセッションの重要性がきわめて高く評価されたことは、今後のワークショップを考えるときに、現場の薬剤師の方々に、医療人としてのプロフェッショナリズムを確立し、その上で、後進の指導をいただくために、重要と考える。

【記述形式の設問】

- [13] 講演の内容は、実務実習を行う上で役に立ちましたか。役に立った点が具体的にあればお書き下さい。

《まとめ》

(病 院)

医療人教育については、PNP の重要性、指導者と学習者の関係に配慮した接し方、態度教育は教えることではなく引き出すことなどについて理解でき、教育とは共に学

び共に育つこと、すなわち“共育”であり、学習者の行動に価値ある変化をもたらすことであることとの認識ができたとの感想が多かった。また薬剤師の医療人としての在り方については、患者から多くを学び成長すること、患者側に立った医療の重要性、チーム医療の意義とそこでの薬剤師の役割、現在の医療で薬剤師が期待されることなどについて理解が深まった、との回答があった。

(薬 局)

医療人教育については、指導薬剤師としての自信が持てるようになった、モチベーションが上がった、後輩を育てる医療人・教育者としての心構えを再認識した、学生の接し方に対する意識の変化があった、患者中心の医療・チーム医療の重要性、参加型教育の重要性が認識できたとの回答が多かった。印象に残った言葉としては、“評価は人を作る”、“共育”、“PNP”、“学んだことの唯一の証は変わることである”などがあげられた。

上記の(病院)の回答を合わせて、医療人・薬剤師としてどのように後輩を育てればよいか、実習をどのように進めればよいかについての指針となるものである。

【記述形式の設問】

[14] 講演の内容を実務実習を行う上で活用しましたか。活用した点が具体的にあればお書き下さい。

《まとめ》

(病 院)

講演の内容が実習指導や日頃の薬剤師としての業務に生かされたとの感想が多かった。具体的には、PNP、ほめて育てること、共に育つことを心掛けた学生への接し方・フィードバックが行われ、学生主体の実習の実施、医療人に求められる資質の伝達、常に患者さんを意識した教育が行われた。また、自分自身の医療人としての在り方について色々なところで参考になったとの意見があった。

(薬 局)

上記の(病院)と同じく、講演の内容が実習指導や日頃の薬剤師としての業務に生かされたとの感想が多かった。具体的には、PNPを活用したという回答が目立ち、また、学生に実習内容だけではなく薬剤師の使命や医療人としての在り方・心構えについて伝えた、学生との信頼関係を大切にしたい、“共育”に心掛けた、クラーク博士の言葉を伝えた、態度教育に重点を置いて指導を行ったなどがあげられた。

8) 「認定実務実習指導薬剤師 10,000 人養成」に向けての講演について

【選択形式の設問】

- ① 講演の内容は理解できましたか。
- ② 薬学教育改革の重要性についてどのように思われますか。
- ③ 参加型実務実習の重要性についてどのように思われますか。
- ④ 講演の内容は実務実習を行う上で役に立ちましたか。
- ⑤ 講演の内容を実務実習を行う上で活用しましたか。

《まとめ》

このセッションのアンケート結果では、「参加型実務実習の重要性についてどう思われますか」という問いに対して、「大変重要」「重要」という回答の和は、病院、薬局ともに 95%と同程度に高かった。ただし、「大変重要である」と回答した割合は、病院 48%、薬局 53%と、若干ではあるが薬局で多かった。この差は「無い」とみてよいのかもしれないが、病院の薬剤師は、職場がチーム医療の環境にあるために、ある程度は「当然のこと」と考える参加者の比率が高かったこと、また、医師の教育制度の改革が進んでいる現状（医学部の学生は、学生の身分でも、一定の条件を満たせば指導医の監督のもと、患者に医療行為ができるようになったこと）を知っているために、低くなったのかもしれない。

【記述形式の設問】

[15] 講演の内容は、実務実習を行う上で役に立ちましたか。役に立った点が具体的にあればお書き下さい。

《まとめ》

(病 院)

全体的に、薬学教育が 6 年制になった経緯と意義、さらに 6 年制教育における実務実習の重要性、その指導を行う薬剤師の責任の重さが理解され、また認定制度の意義や仕組みも理解されたと言える。参加型実習の意義、均質な大学との連携の必要性についても理解できたとする感想や薬剤師としての意識改革に役立つとの回答もあった。

(薬 局)

上記の（病院）と同じく、薬学教育が 6 年制になった経緯と意義、実務実習の重要性、指導薬剤師の責任の重さが理解されたと言える。また、見学型から参加型実習への移行について理解できたとの回答が多く、実務実習指導者としてのモチベーション向上に役立った、後輩を育てることの重要性を認識したとの回答もあった。

【記述形式の設問】

[16] 講演の内容を実務実習を行う上で活用しましたか。活用した点が具体的にあればお書き下さい。

《まとめ》

(病 院)

大学との連携に努めるようになった、参加型実習を実践した、共に育つことに心掛けている、実習内容にとどまらず薬剤師業務全体についての理解が深まるように心掛けたとの回答があった。

(薬 局)

6年制薬剤師教育の内容の理解に努めた、体験型実習の実践・ほめて育てることに心掛けた、患者さんのための薬局であり薬剤師であることを学生に伝えた、職種間の連携の機会を持つようになったなどの回答があった。

9) 今後実施して欲しい講演の内容があればお書きください。

【記述形式の設問】

[17] 今後実施して欲しい講演の内容があればお書きください。

《まとめ》

(病 院)

6年制の教育内容については、現在の教育体制・4年制教育との比較、外国の薬学教育との比較、実務実習における目標とその到達度、病院実習と薬局実習の棲み分け、大学で実施している教育の内容、教育・実習の評価などを希望する意見があった。また、実際の実務実習については、これまで行われた実務実習の実態・事例（成功例・失敗例、セクハラ・パワハラ事例など）と問題点への対処法、学生への接し方・カウンセリング、コーチング、学生による薬剤師教育・実務実習に対する意見・評価・体験談など、コミュニケーション術や学生心理について、実習の内容については、チーム医療、フィジカルアセスメントなど、今後の6年制教育の在り方については、実務家教員の役割・在り方、実務実習の今後の課題、医療現場で求められる薬剤師業務、6年制導入による薬剤師に求められる業務の変化・今後の展望、実務実習の改善に向けた展望などがあげられた。また、日野原先生のご講演を希望する回答もあった。

(薬 局)

6年制の教育内容については、大学・薬剤師会の考え方・取り組み、実際に発生している問題点・課題、医療人としてのモラル教育などを希望する意見があった。また、実際の実務実習については、学生への接し方、モチベーション向上のための手法、カウンセリング、メンタルケア、コーチング、コミュニケーション術、マニュアル化された教育手法、評価システム・評価方法（特に形成的評価）、参考になるような事例・

工夫例、トラブル事例・対処法、在宅の実例、やり難い目標への対処法があげられ、今後の6年制教育の在り方については、指導薬剤師の社会的責務・条件・更新手続き、指導者の評価、改善に向けたアンケート調査、薬薬連携、医療スタッフ間の連携、大学との連携があげられた。今後あるべき薬剤師像については、将来の薬剤師活動・目指すべき薬剤師像、処方権の問題、地域医療における薬剤師、医療と介護、専門薬剤師の養成などがあげられた。

10) 配布資料について

【選択形式の設問】

- ① 配布資料の内容は理解できましたか。
- ② 配布資料は実務実習を行う上で役に立ちましたか。
- ③ 配布資料を実務実習を行う上で活用しましたか。

《まとめ》

病院、薬局とも配布資料の内容は「理解できた」が、およそ90%、「役に立った」が、病院70%、薬局65%、「活用した」が、病院38%、薬局36%とほとんど差はなかった。配布資料が、セッション毎に配付され、冊子体として配布していないことも、事後の利用に不便なことも推定されるが、ワークショップを振り返るときに、配布資料を見ることそのものが、少ないと思われる。タスクフォースとしてワークショップに関わるようになる人でも、活用している人は少ないようである。なお、個人的な経験として、「引用文献が不十分である」という指摘も参加者から受けたことがある。日本医学教育学会監修の「ワークショップガイド」の紹介は入れたほうがよいと思った。

【記述形式の設問】

- [18] 配布資料は実務実習を行う上で役に立ちましたか。役に立った点が具体的にあればお書き下さい。

《まとめ》

(病 院)

実習指導において役立ったという回答が多く、実習指導全般の参考にした、教育用語の理解・カリキュラムの作成・目標や方略の設定・評価方法の選定に役立った、SGDやKJ法の意義、Daleの円錐について再確認できた、大学の実務実習書の内容を理解するために役立ったなどの回答があった。

(薬 局)

上記の(病院)と同じく、実習指導において役立ったという回答が多く、実習に際し復習として基本に戻って見返した、カリキュラムの作成・目標や方略の設定・評価方法の選定・指導内容の確認に役立った、KJ法や二次元展開法を行う際に手法を確認

できた、薬局の同僚・スタッフへの説明に役立ったなどの回答があった。

【記述形式の設問】

[19] 配布資料を実務実習を行う上で活用しましたか。活用した点が具体的にあればお書き下さい。

《まとめ》

(病 院)

上記 18 の回答と重複するものがほとんどで、同様に目標や方略の設定、評価方法の選定への活用が多く、また KJ 法と問題点への対応や SGD のやり方についても利用するとの回答が多かった。活用されている場合は、一度だけではなく繰り返し読み返されていることが伺えた。

(薬 局)

(病院)と同じく、カリキュラムの理解・作成への活用を中心に上記 18 の回答と重複するものがほとんどであったが、評価へ活用したとする回答の割合が多くなった。また、RUMBA や Dale の円錐の意義の再確認に活用したとの回答もあった。

【記述形式の設問】

[20] 現行の配布資料以外に配布した方がよい資料があれば具体的にお書きください。

《まとめ》

(病 院)

実際の実習指導に使用できるもの、参考になるものについての要望が多かった。具体的には、指導薬剤師用テキスト、一般的な実習テキスト、カリキュラムモデル、学習目標別の演習問題集、SBOs の達成度チェックリスト、実務実習中の学生のレポート、実際に学生に渡せるような教材、評価の具体的方法、実習の実演 DVD などがあげられた。また、講演内容のハンドアウト、教育用語解説集、学生の就職希望先の情報、配布資料の参考文献、紙媒体ではなく利用しやすいデジタルデータなどの希望もあった。

(薬 局)

上記の(病院)と同じく、実際の実習指導に使用できるもの、参考になる資料に対する要望が多く、薬局実務実習指導ガイド、事例集として実際の実習のスケジュールを何例か紹介する資料、実習ツールに関する資料、学生アンケートなどの実習に関するフィードバックや学生のメンタルケアに関する資料、教育用語解説集、評価の具体的な方法・事例集などの希望があった。

11) 特に難しかった教育用語があればお書きください。

【記述形式】

[21] 特に難しかった教育用語があればお書きください。

《まとめ》

(病 院)

用語全般に理解し難いとの回答があり、また英字表記に馴染めないとの回答があった。目標については、GIO と SBOs、分類(想起・解釈・問題解決)、適切な動詞、RUMBAなどがあげられ、方略については、方略という用語自体という回答が多く、目標との対応、LS と方略の違いもあげられた。評価については、目標の分類との対応、形成的評価があげられた。KJ 法については初めて聞いた参加者にも馴染みやすいようであった。

(薬 局)

回答内容は上記の(病院)とほぼ同様であり、全般的に教育用語が理解できなかったとの回答が多かった。目標については、GIO と SBOs が特に多く、分類(想起・解釈・問題解決)、方略については、方略という用語自体という回答が多かった。評価については、形成的評価と総括的評価、評価が持つ属性があげられた。コンセンサスゲームや SGD、KJ 法をあげた回答も複数あった。

【全体のまとめ】

- ・ 病院と薬局で大きな差は認められない。
- ・ いずれの項目も“よく理解”、“おおよそ理解”というポジティブな回答であった。
- ・ 最も低い「活用したか」でもおおよそ 50%以上であり、WS は実務実習において有益であったと結論できる。
- ・ 目標、方略、評価についての理解度についても大きな差は認められない(目標が 95%、評価が 90%と若干の低下傾向を示した)。
- ・ 医療人教育、10,000 人、配布資料についても同様の傾向であった。
- ・ 医療人教育については、講演者によって内容に大きな差があり、またコンサルタントが参加した場合とビデオの場合との差などもあるはずだが、この差を読み取ることはできなかった。今後の運営、特に経済面を考えると差を明確にする必要があるのではなかろうか。

(2) ワークショップに参加して

下記のワークショップでの実施内容について、薬剤師としての業務・活動に役に立ったこと、実際に活用されたことがあれば、お答えください（複数回答可）。

【選択形式の設問】

① -1 参加型研修（ワークショップ）について：役に立った業務・活動

《まとめ》

ワークショップでは、参加者が受講後、現場に戻ったときに、参加して得た体験が活用されることが重要である。その意味で、ワークショップ受講後に、実務実習で役立ったと答えたものが病院、薬局ともに 75%程度と高い結果であったことは、本ワークショップの目的が、良く達せられていると言ってよいであろう。また、業務に役立ったという問には、病院、薬局ともに 1/4 の参加者が役立ったと回答しており、さらに、地域・地区で役立ったという回答も 20%を超えている。このことは、本ワークショップが、日常業務、地域での活動の改善に役立っていることを示しており、薬剤師の生涯学習のひとつの機会となり、良い結果をもたらしているものと評価してよいであろう。

【記述形式の設問】

[22] その他を選ばれた場合その内容をお書きください。

《まとめ》

(病 院)

実務実習、研修以外に、自己研鑽、多職種との交流があげられた。

具体的には、WS のセッションの内容が役立ったこととして、目的を達成するためのプロセスについて学ぶことができた、SGD は以前取り入れていなかった学習方法であったので有益だった、新しい知識に触れられたなどがあげられた。薬局薬剤師との交流ができたこととして、薬局薬剤師の先生方と一緒に学ぶことでより知識が深まった、ワークショップが薬局薬剤師と病院薬剤師の交流の場となったなどがあげられた。また他の研修に役立ったこととして、他の SGD の機会や、院内の接遇研修、グループ施設の研修などで用いられたことがあげられた。

(薬 局)

最も役立ったのは、情報交換・地域連携ができたことで、その次に、研修、そしてワークショップという学習法という回答が多かった。

具体的には、情報交換・地域連携ができたこととして、色々な地域、施設の薬剤師と情報交換でき新鮮で参考になった、色々立場の薬剤師と接し様々な考えを聞くことができた、薬局勤務以外の薬剤師や大学教員と情報交換できた、大学教員の考えにふれて意識を共有できた、大学と現場のズレを痛感した、地域での薬剤師会の業務推進

(受入薬局集合研修) や介護施設での実習に役立った点があげられた。また、ワークショップという学習法を知って役立ったこととしては、カリキュラムプランニング、評価法、到達目標の作成、業務の問題点の抽出や解決の方法などがあげられた。他にも、薬局のスタッフ研修や新入社員研修に役立ったという回答があった。

【記述形式の設問】

【23】 役に立った点が具体的にあればお書きください。

《まとめ》

(病 院)

実務実習の中で、基本的な教育の考え方、カリキュラムの立案、目標、方略、評価の立て方、評価の仕方などを活用したという記述が多かった。また、SGD の有用性を認識し、実務実習でも活用したという記述もあった。次に、人材育成、研修と日常業務に活用したという回答が多く、その他には、他職種との情報交換・交流に活用したという回答であった。

具体的には、一方的に教える実習から実習生自身に考えさせる実習への取り組みができた、調剤薬局、薬剤師とコミュニケーションをもつ事ができて通常業務にも良い流れがうまれた、学生実習のみでなく多方面で教育指導を行う事に対して私自身のモチベーションを保つことができるようになったなどがあげられた。

(薬 局)

実務実習の中で、ワークショップのいろいろなセッションの内容が役立ったというものが圧倒的に多かった。モデル・コア・カリキュラムの意味、カリキュラムプランニング、目標、方略、評価の立て方、評価法、PNP などがあった。また、SGD や KJ 法の方法そのものや、問題解決の手法などもあげられた。医療人としての意識、将来の薬剤師の育成の重要性、6年制教育の内容の理解、実習生を受け入れる気持ちが出来たなど、実務実習にむけて、参加者がポジティブな評価をしている意見が多くあった。その他には、他職種との情報交換・交流や、自己研鑽に役立ったという回答であった。

具体例としては、カリキュラムの立案に役立てた、実習におけるフィードバックの重要性がよく理解できた、参加型の実習を意識して指導できた、命を預かる大切な仕事をしている重さを痛感した、実務実習を指導するための心の準備ができた、大学・病薬・薬局と連携しての取り組みであることを実感できたなどがあげられた。

【選択形式の設問】

① -2 参加型研修 (ワークショップ) について：活用した業務・活動

《まとめ》

「役立った」という上の問から、「活用した」とより積極的な応用になると、若干、

数字は下がるが、それでも、実務実習で活用されていることを示し、さらに、30%前後の参加者が活用した業務があると答えている。

【記述形式の設問】

[24] その他を選ばれた場合その内容をお書きください。

《まとめ》

(病 院)

活用した内容となると、人材育成と研修という回答がほとんどであった。

具体的には、新人教育、大学での後輩指導、薬剤管理指導、各種研修会、グループ施設の研修などへの活用があげられた。

(薬 局)

活用した内容となると、日常業務と研修という回答が多かった。

具体的には、実務実習受け入れでは、実務実習を進めていく上での問題点の共有化、地域での薬剤師会の業務推進（受入薬局集合研修）への活用があげられ、また日常業務では、サプリメントの講義・指導を自分でやるようになった、モチベーションが向上した、店舗の方向性の検討へ活用したなどがあげられた。人材育成・研修では、勤務薬剤師への教育、新入社員研修、講習会などでの活用があげられた。

【記述形式の設問】

[25] 活用された点が具体的にあればお書きください。

《まとめ》

(病 院)

最も役立ったのは実務実習で、その次に研修、自己研鑽、そして多職種との交流という回答が多かった。

具体的には、ワークショップのセッションの内容が役立ったこととして、目的を達成するためのプロセスについて学ぶことができた、SGD は以前取り入れてなかった学習方法であったので有益だった、新しい知識に触れられたなどがあげられた。薬局薬剤師との交流ができたこととして、薬局薬剤師の先生方と一緒に学ぶことでより知識が深まった、ワークショップが薬局薬剤師と病院薬剤師の交流の場となったなどがあげられた。また他の研修に役立ったこととして、他のSGD の機会や、院内の接遇研修、グループ施設の研修などで用いられたことがあげられた。

(薬 局)

実務実習で活用するときの事例が最も多く、他職種との連携、薬局業務、人材育成・研修、自己啓発などの内容であった。具体的には、実習で座学より実務に重点を置き進めた、薬薬連携を実施したなどがあげられた。

【選択形式の設問】

② -1 スモールグループディスカッション（SGD）について：役に立った業務・活動

《まとめ》

病院、薬局ともに、実務実習において、役立ったと回答したものが2/3～3/4あったことは、実際の学習方略としてSGDを利用するにとどまらず、技能項目のSB0sなどの指導においても、学生に「一方的に教える」だけでなく、学生の意見や学生が持っている知識、経験を聞き出して指導することを心掛けていることが推定された。このことは、「いろいろな方の意見を聞く、といことで、学生に自分を押し付けない」ことが大事ということを認識したという自由記述によって裏付けられる。また、日常業務や地域での活動にも役立ったという回答が、薬局、病院でやや差はあるが、20～30%程度あったことも評価できる。

【記述形式の設問】

[26] その他を選ばれた場合その内容をお書きください。

《まとめ》

（病 院）

実務実習として、調剤薬局や大学病院のスタッフの考え方や疑問・悩みがわかったなどがあげられたが、実習生が一人のためSGD方式は取れず、マンツーマンになってしまう、との回答もあった。人材養成としては、新人研修、研修会、院内研修会、グループ施設の研修、大学の授業、保護者会などがあげられた。また自己研鑽としては、様々な場面でのグループワーク時のメンバーシップのあり方、対外的に主催している勉強会への応用、短時間で成果を視覚的に表現する技術、輸液の研修会でのグループワーク、院内感染対策の強化事業でのグループワークなどがあげられた。

（薬 局）

実務実習として、学生に自分を押し付けないことを再認識、薬局での人材育成などとして、社内教育研修、入社員研修、社内勉強会、会社の会議、薬剤師会での活動、講習会などがあげられた。また、自己研鑽にも役立つとの回答があった。

【記述形式の設問】

[27] 役に立った点が具体的にあればお書きください。

《まとめ》

（病 院）

圧倒的に、実務実習で役立ったという事例が多く、SGDの実施方法などSGDを実務実習に取り入れるとき、SGDでチューターをするとき役立ったという例が多かった。

次いで多くの回答があったのが、日常業務と自己研鑽であった。

具体的には、実際に学生にテーマを設定し、SGD を行う際に参考になった、業務改善を行う際にSGD を行うことにより意見交換を活発に行うことができた、ひとの意見、考え方を聞くことにより、自分の考えを客観的にとらえられることもあるなどがあげられた。

(薬 局)

自分自身の成長に役立ったという回答が多く、次いで、実務実習で役立ったという回答であった。日常業務に役立ったという意見もかなりあった。

具体的には、グループの中には色々立場の違う方もいて、考え方に違いがありことを発見できた、「社会における薬剤師の役割」について薬学生と店舗スタッフを交えSGD を行った、コミュニケーション力がついたなどがあげられた。

【選択形式の設問】

②-2 スモールグループディスカッション (SGD) について：活用した業務・活動

《まとめ》

SGD を「活用した」となると、上記よりも数字は下がるが、それでも2/3程度の参加者が、実務実習に活用しており、1/3程度の参加者が業務に活用したと答えている。

【記述形式の設問】

[28] その他を選ばれた場合その内容をお書きください。

《まとめ》

(病 院)

実務実習として、院内研修などでもSGDの機会が増えており薬学生にもテーマを与えて実施している、調剤薬局・大学での悩みなどがわかったので実習生に注意しやすくなったなどがあげられ、研修会などとして、様々な研修、薬剤管理指導、がん化学療法・緩和ケア委員会の運営と委員会目標の立案についての検討会、大学の授業、保護者会などがあげられた。また、自己研鑽として、薬局会などの会議進行、チューターの難しさに気づき改善策を考えるきっかけになったことがあげられた。

(薬 局)

実際に活用した業務となると、活用というほどではないという回答になってしまう傾向にあり、特になし、あるいは、活用していないという意見が多かった。次いで、種々の研修で活用したという意見があった。

具体的には、実務実習にかかわる業務として、実務実習集合研修、指導薬剤師の集合研修など、研修会などとして、新入社員研修、社内勉強会、地域でのミーティングなど、日常業務として、業務効率化のためのお互いの意見交換があげられた。

【記述形式の設問】

[29] 活用された点が具体的にあればお書きください。

《まとめ》

(病 院)

実務実習で SGD を行うことで、良い結果が得られている事例や、日常業務の改善に役立ったという例が多く、自己研鑽の例が 3 番目にあがっている。

具体的には、医療安全のことを学生に SGD させることで、様々な考え方があることを体験してもらえた、医療安全について SGD をした後に講義を行った結果、より理解を深めたように思われた、薬局内カンファレンスを行う様になったなどがあげられた。

(薬 局)

実務実習で SGD を行うことで、良い結果が得られている事例として、「災害時における薬剤師の役割」、「OTC の選択」、「調剤過誤事例」、「在宅医療」などをテーマがあげられていた。日常業務の改善や種々の研修に役立ったという例が多く、やはり自己研鑽の例が 3 番目にあがっている。

具体的には、実習生にそれぞれの役割を分担させてディスカッションが実施できた、社内の調剤過誤防止研修を SGD で行った、どのような意見も否定しない方法がコミュニケーション向上に役立ったなどがあげられた。

【選択形式の設問】

③-1 スモールグループディスカッション (SGD) について：役立った業務・活動

《まとめ》

コンセンサスゲームは、ワークショップでは必要・重要なものであるが、実務実習では、長期にわたり、同じ学生を指導するようになることもあり、学生の緊張を解くために、ゲームをする必要はないので、その重要性は下がると推定される。回答結果も、およそ 1/2 の参加者が役立ったと答えていた。他の業務にも役立ったという回答がおよそ 25%あり、研修や会合などで利用されたことがわかる。

【記述形式の設問】

[30] その他を選ばれた場合その内容をお書きください。

《まとめ》

(病 院)

研修で役立ったという回答が多く、その場合、アイスブレイキングというよりも、SGD の考え方が役立ったという記述が散見された。また、この設問では、ゲームそのものは、役に立ったことはない、という記述が最も多かった。(ここでは、役立ったというもののみ記載)

具体的には、研修などとして、ワークショップを行う上で必要なグループ員相互のコミュニケーションを円滑に行うことができるようになった、NASA における飛行機事故後の遭難での集団としての対策計画、各種研修会など、個人的な知識として、考え方などがあげられた。

(薬 局)

利用、活用できないという意見が多く、ワークショップ当日に役立ったと答えた人が多かった。他には、研修で役立ったという回答が多い。SGD という方法が自分にとって役立ったという意見もあった。

具体的には、ワークショップに参加したときとして、参加者融和・交流ができた、チームへの参加が自然にできた、ワークショップ中の親近感が増した、緊張を解くために有効などがあげられた。また実務実習として、事前学習、学生イベント、対人交流、実習生との接し方・関わり方などがあげられ、薬局内・地域での研修として、社内研修、新入社員研修、社内勉強会、教育担当者研修、地域の連携、薬局内のコミュニケーションがあげられた。さらに、自己研鑽として、自己向上、日頃の生活、人生観などがあげられた。

【記述形式の設問】

[31] 役に立った点が具体的にあればお書きください。

《まとめ》

(病 院)

役立った理由として、アイス・ブレイキングの有用性・重要性がこの記述欄であがっていた。役立った例としては、業務や自己研鑽の意味で (SGD の考え方) があつた。

具体的には、他大学生間の実習初日のコミュニケーション、初対面の人が集まる会議や SGD があげられ、個人毎に考え方が異なることが理解でき他人の意見も参考とするようになったとの回答があつた。

(薬 局)

役立った具体例として、コンセンサス・ゲームを通じて、集団のコンセンサスを得る方法、意思決定の方法として認識されていることがわかる回答が多くあつた。実務実習では、実習の開始時期に利用される例があつた。アイス・ブレイキングの意義や重要性を認識できたことが役立ったという回答が多かつた。また、SGD の意義をゲームのセッションで学んだという意見もあつた。

具体的には、コンセンサスをとる学生の不安を取り除く、個人的判断を強調することなく論理的根拠によって対処する・安易な妥協はしない・多数決では決めないなどの回答があつた。

【選択形式の設問】

③-2 スモールグループディスカッション (SGD) について：活用した業務・活動

《まとめ》

コンセンサスゲームを活用したとなると、役立ったという回答よりも数字が下がるが、実務実習では、使用頻度が実習の最初の時期に限られるために下がったと思われ、その他の項目（業務上の活用や地域での活用など）でも、コンセンサス・ゲームを行う必要が生じる場面が少ないことがその理由と推定された。自由記述欄を見ると、他大学の学生と一緒に実習を行う場合に、利用されたことがうかがえ、アイス・ブレイキングが実務実習でも役立ったことがわかった。

【記述形式の設問】

[32] その他を選ばれた場合その内容をお書きください。

《まとめ》

(病 院)

アイス・ブレイキングを活用したことはない、という記述が最も多く、活用した例は少ない。日常業務などでという以下の6つ（研修会は重複3件）のみであった。

具体的には、業務などとして、日常、各種見学など、講演、研修会、初対面の人との会議・話し合いなどでの活用があげられた。

(薬 局)

アイス・ブレイキングを活用したことはない、できない、という記述が最も多く、具体例は少ない。日常の生活や業務でという以下の10の意見だけであった。

具体的には、日常の業務などとして、事前学習、外部講演者を招いての社内教育、新入社員研修、社内勉強会、自己向上、人生観、お茶の時間などでの活用があげられた。

【記述形式の設問】

[33] 活用された点が具体的にあればお書きください。

《まとめ》

(病 院)

上述のように、活用した例がほとんどなく、上述と同じ回答であった。実際に、コンセンサス・ゲームが活用される場面としては、SGDを使用する参加型の研修を企画するときに限られているように見える。

具体的には、各種見学などがあげられたが、少数であった。

(薬 局)

上述のように、活用した業務としてほとんどないという回答であったが、実務実習

の初期にコンセンサス・ゲームが活用されていることが多い。薬局のメンバーと学生とを交えた SGD による自己紹介の例など、旨くアイス・ブレイキングが取り入れられている。アイス・ブレイキングではないが、ゲームのセッションは SGD の有用性を認識するセッションとなっていることがわかった。ゲームそのものは活用されていないということも伺えた。

具体的には、実習初日の顔合わせのとき緊張を取り除くため、何かを決めるときスタッフ間で、少数意見の大切さを取り入れることの重要性を日常業務で、との回答があった。

【選択形式の設問】

④-1 の設問 KJ 法（課題の抽出）について：役に立った業務・活動

《まとめ》

KJ 法が実務実習で役立ったという回答については、病院が 50%を越えているのに対し、薬局は 50%を切っていた。これは、1 施設における受け入れ学生数が病院では多いことが原因と思われる。自由記述では、病院でも、学生数が少ないと難しいという意見があり、実務実習の中で役立つものというよりも、業務で利用できる場所があればということのようである。

【記述形式の設問】

[34] その他を選ばれた場合その内容をお書きください。

《まとめ》

(病 院)

子供の教育、研修など、自分の物事の考え方について、アドバンスト・ワークショップ、がん研修の受け入れ、学生が悩んでいる時の助言に、グループ施設の研修などがあげられた。

(薬 局)

研修会として、社内教育研修、通常のスタッフ研修、新入社員研修、社内勉強会、日常業務の検討、店舗運営、規格の選定、薬剤師会での研修などがあげられた。自己研鑽としては、薬局運営における課題の抽出をする時、病態など病気と治療に関して、頭の中で整理する際、仕事の課題抽出、調剤過誤を防ぐ方法を考えるとき、服薬指導の問題点抽出、日頃の業務の評価、薬剤師の役割、日常業務での考え方の整理などがあげられた。また経験として、KJ 法というものを知って良かった、個人の知識として役立った、思考法として役に立ったという回答があった。さらに回答は、自分のアイデア整理、日々の生活などにまで及んだ。

【記述形式の設問】

[35] 役に立った点が具体的にあればお書きください。

《まとめ》

(病 院)

施設では、院内での問題点の抽出と解決に非常に役立った。具体的には、医療安全分野での持参薬管理に応用した。実務実習では、指導及び業務改善のための問題点の抽出・検討に役立ち、地域では、地域連携研修会において役立った。本方法の利点として、消極的な人も意見を出しやすく、それをきっかけに活発に議論に参加できるようになる点があげられた。

(薬 局)

実習生の受け入れに対する問題点の抽出、どんな患者背景があるのか考えてみる方法として、また、施設での業務改善を話し合う時に導入、問題点を洗い出すのに役に立った。実務実習では、ワークショップで作成した KJ 法のプロダクトを参考にした、との回答があった。利点として、人数が多くても焦点の絞った話し合いができることがあげられた。

【選択形式の設問】

④-2 KJ 法（課題の抽出）について：活用した業務・活動

《まとめ》

KJ 法を実務実習で活用したのは、病院が 50%を切っているのに対し、薬局のほうが 60%と多かった。患者や薬剤などのバラエティが薬局のほうが多いためと想像されたが、理由は不明である。

【記述形式の設問】

[36] その他を選ばれた場合その内容をお書きください。

《まとめ》

(病 院)

課題を抽出して意見を集約する、研修会、グループ施設の研修、医療安全（医療事故からの問題点の抽出）へ活用があげられた。

(薬 局)

薬局内の改善点の整理、日常業務、日々の生活、短時間での議論への活用があげられ、また、薬剤師会の実務実習後の考察、薬局運営における課題の抽出、会議中の問題抽出・解決法への検討、日常生活における問題解決への活用があげられた。自社研修、新入社員研修、社内勉強会などでの活用も多く、学生と共に抽出する場面も設定したとの回答もあった。

【記述形式の設問】

[37] 活用された点が具体的にあればお書きください。

《まとめ》

(病 院)

施設では、精神科薬剤管理指導初回時にワークショップでの経験を活用し問題点抽出、実務実習では、指導及び業務改善のための問題点の抽出・検討、地域では、地域薬剤師会でのグループディスカッション形式勉強会への活用があげられた。利点として、様々な意見をまとめる時に公平に意見を取り入れることができるとの回答があった。

(薬 局)

施設では、調剤ミス対策で原因や発生時期の分析に活用し、実務実習では、問診表の内容改善に学生も参加させて活用し、地域では、薬剤師活動の際に問題解決に用いた。利点としては、1つの課題で正解がないあるいはたくさんある場合、いろいろあげて各々についてディスカッションすることができる点があげられた。

【選択形式の設問】

⑤-1 KJ法（課題の抽出）について：役に立った業務・活動

《まとめ》

問題点への対応のセッションが実務実習に役立ったと答えたのは、病院、薬局ともに2/3程度であり、業務で役立った（1/3程度）、地域で役立った（5～10%程度）と、ほぼ同じ程度で病院と薬局とであまり差はなかった。KJ法が役立ったという回答を上回る役立ち方をしている点は興味ある。これは、KJ法を使用しなくても、問題点の軽重、緊急性などを考えることはあるので、問題点の解決法として役立ったというものが含まれた結果であろうと推察した。

【記述形式の設問】

[38] その他を選ばれた場合その内容をお書きください。

《まとめ》

(病 院)

自分の仕事内容にも優先順位をつけて考えるように心掛けた。また、各種研修会などがあげられた。

(薬 局)

服薬指導、薬剤師会研修会、新入社員研修、社内勉強会、仕事の問題点の確認や対応、また業務を離れた家の建て替え、家族会議もあげられた。